

大阪府における 悪性中皮腫

Kanako Hara

原 加奈子

大阪国際がんセンター



最優秀
ポスター賞

この度の日本がん登録協議会第31回学術集会において、最優秀ポスター賞という栄誉ある賞を頂戴しました。この場をお借りして、ご指導いただいた諸先生方、審査いただいた学術委員会委員の皆様と大会長の小泉先生に心より感謝申し上げます。

悪性中皮腫は希少がんに分類され、発症原因としてアスベスト曝露との関連性が報告されています。また、2019年の人口動態統計によると、中皮腫による全国の死亡数は1,466件、そのうち大阪府の死亡数は148件と最も多いとされています。そこで、大阪府がん登録データを用いて、「大阪府における悪性中皮腫」について調査しました。1976～2015年に診断された悪性中皮腫は2,998件、罹患数は近年増加傾向にあり、2011～15年罹患873例における大阪府人口10万人当たりの年齢調整罹患率（直接法）は0.956、男女比率は1:0.3、罹患年齢は60～70代に多いという結果でした。2010～14年診

断710例の5年純生存率（Pohar-Perme）は8.1%であり、患者の予後は未だ不良でありました。

また、2011～15年罹患（DCOを除く）786例の約8割が大阪府での受療（大阪府のうち91%が拠点病院）、約2割が他府県への受療（他府県のうち89%が兵庫県）でした。患者居住地別（大阪府8二次医療圏）にみると、医療圏による差はあるものの（中河内の40%から堺市・南河内の78%）、患者は居住地と同一医療圏の拠点病院へ受療する傾向にありました。大阪府内・府外に因らず、アクセスしやすい拠点病院等の中から悪性中皮腫を扱える医療機関が選ばれている現状がみてとれました。

大阪府がん登録の歴史は長く今年で60周年を迎えます。歴史ある大阪府がん登録データを活用し、今後も府民や各種学会等へ向けて情報発信していけるよう精進してまいります。

③ -2. 受療傾向（2011-2015年） / 患者居住地別（大阪府8医療圏）

